

佳作 夢



マハラニ サプトリ
MAHARANI SAPUTRI
国 籍 インドネシア
職 種 介護
実習実施者 社会福祉法人三和会
監理団体 協同組合ケアサポート瑞穂

夢とは何か。人によって答えが違っているでしょう。子供の頃の私は、その質問の答えが沢山ありました。例えば、歌手や教師や医師など。しかし、誰もが自分の夢を持って生きているわけではありません。また、私のように夢が変わる場合もあるでしょう。

この話は、私が高校時代に老人ホームで見習いをした時に始まります。老人ホームで見習いをしていた時、介護は高潔で大変な仕事だと感じました。そのため私は介護者を夢みたことはありませんでした。私は、高校卒業後、何になりたいのか悩む時期がありました。何をしたら良いのかかわからず、アルバイトをして暮らしていました。そして、色々と考えた結果、日本の文化に興味があったことから、日本で介護の見習いに参加してみました。

しかし、自分の願いを叶えるのは、想像していたほど簡単ではありませんでした。日本についての事は、桜が沢山咲いている事以外は良く分かりませんでした。

私の願いを叶えるためには、日本の文化や日本語の読み書きなど多くの事を学ぶ必要がありました。特に日本語の勉強を始めた時が大変でした。私の将来のために選

んだ道で本当に正しかったのか考えました。

約一年間、日本語と介護の勉強をし、様々な経験を経てようやく日本に入国できました。私が経験した事はそれだけではありません。技能実習生として老人ホームに入り、高齢者や職員、職場環境に適応する必要がありました。最初は、私の日本語能力では高齢者が異なる方言などを使う際に分らないことがありました。他の職員から得たすべての助けと私が行なった努力により、介護者の仕事に慣れる事ができました。慣れれば仕事は楽になります。そして私は毎日、介護の仕事をしていましたが、知らないうちに利用をしている方が入れ替わっている事に気付きました。新しい利用者として来る方、病気で入院し治療をうける方、施設でお亡くなりになる方など。私にとって高齢者の方々は、自分の両親の姿と重なるところがあるため、その事はとても悲しくなります。経験したすべての事を思い返すと、一年以上も日本にいたとは信じられません。時間の経過とともに私は日本についての知識を深めています。この国では自動販売機をどこでも見つけることができます。世話をしている高齢者を見ると平均寿命が長いと感じます。日本企業の規律と時間厳守などにも感銘を受けています。それ以外にも感謝しなければならないのは、インドネシアの家族の家計を手伝うことができ、ゆっくりと自分の家をインドネシアに建て、困っている人を助けることができるということです。子供の頃に思い描いた夢とは違っていても、それは、失敗した人生ではありません。完璧な人生もありません。大切な事は、人生の分岐点を行動する事と、自分のおかれた状況で最善をつくすことだと思います。